

資料涉獵余話

その68

水戸浪士の伊那通行が靖国神社に合祀後のことを調べているうち、数点、従来の知見と少し異なったことがわかったので、メモしておこう。飯田で大正4年になって「水戸浪士五十年祭」を提議、賛同を得る

「伊那公報」に「水戸浪士五十年祭」を提議、賛同を得る
明治34年9月 甲子連の流れは下記のような。
明治39年9月12日 今村眞幸歿す
大正4年10月26日 北原阿智之助、今村緑七郎、北原源三郎、奥村収蔵、上柳緑、窪田治郎八、木下倭志雄、野原半三郎、山田與逸で甲子記念碑前で水戸浪志五十年祭開催の首唱
大正4年11月10日 大正天皇の御大典に藤

明治22年 浪士42人 大正天皇の御大典に藤

田小四郎以下5名の士「郷土研究」欄に「甲子記念碑」を5日間、大正4年11月28日「水戸浪士五十年祭」浪士が来た時を10月22日から11月2日まで「甲子記念碑の周辺」でも触れたように「水戸浪士伊那路通行(今村豊三郎手記)」が、大正4年12月17日以降25日まで「信濃時事」1面に8日にわた

いて、「伊那通行記の後に(担任記者)の記事が、それぞれ数日から8日間も、時には同日重なるように紙上を賑わせている。それらの記事は(担任記者)の当事者の取材をのぞけば、ほぼ「水戸浪士伊那路通行(今村豊三郎手記)」に基づいている。その(担任記者)の記事は「伊那通行記の後に」7冊に収録された。また大正5年12月に発刊された北原稻雄伝『八束穂集』にも収められている。その「伊那史料叢書」収録時には(担任記者)が「中原謹司」だと明かされ、中原たちの取材も註としてとりこんでいる。上述の「信濃時事」の記事は「伊那史料叢書」に収録されていく水戸浪士通過に関する記述に漏れていく様々な事柄が「生な」取材による伝聞などが盛り込まれていてなかなか興味がない。

中原謹司の宿題

嶋 不濁

つて連載されている他「水戸浪士五十年祭」(11月28日)から10月15日に痴山「水戸浪士西上の梗人(北原阿智之助)が概(折山樗邑)祖父が

「伊那通行記の後に」で、2ヶ月以上に及んだ「水戸浪士五十年祭」を終えるにあたって、水戸浪士伊那路通行「は、而して水戸義軍の關係書類は、飯田

失うた如く残念に堪えない處です」とおいて逝った2つの宿題については、①北原家の年代記の元治元年の貸失及び②角田忠行に渡した筑波以来上穂迄の日記の未発見は、未だに解決されていないので、郷土史家といわれる人たちは、後世のゴピペに陥らせずに、ぜひとも紐解いてほしい史料だ。



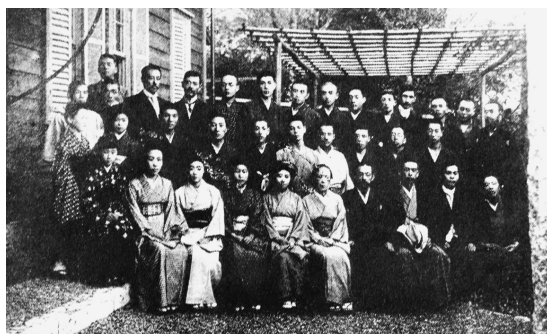
「信濃の誇り」昭和7年より

記事につ

正4年から順次出版さ

に關する古記録が何れ

のだ。そのほか「伊那



文芸協会演劇研究所(明治42年・後列中央)